

今日から新型コロナウイルス感染症が2類相当から「5類感染症」になる。政府として一律の外出自粛要請をしなくなるほか、感染対策についても個人や事業者の判断に委ねられるようになる。これに先立つかのように、今年の大規模連休は、全国各地で活気に満ちた様子が多く報道された。賛否はあって当然だが、なんだかホッとした気持ちにもなる。この状況を元の生活に戻ると捉える人もいれば、またひとつ新しい生活が始まったと捉える人もいるだろう。ちなみに私は後者である。理由を聞かれると困るが、単に新しいことが好きだからである。

新しいことといえば、毎年今年こそはと挑戦するものなかなか継続できないことがある。その一つが手帳である。毎年4月はぎっしり書かれているが、1年の後半にいくにつれ、「あなたの人生はこんなにも暇な毎日なのですか?」と言われればかりの空白のカレンダーになっていく。

継続するコツはいろいろあるだろうが、その一つは何といっても「楽しいこと」「好きなこと」であるということだ。そこで今年は大好きな「水曜どうでしょう」のグッズ「水曜どうてちょう」を購入してみた。するとどうだろう。不思議なことに、とにかく空白を埋めたくなる。運がいいことに、今年は1時間の昼休みがある仕事をしている。しかし、悲しいかな昼休憩になると事務所から人が消える。神隠しにあっていてはない。各々が大好きな愛車のもとへ行ったり外食に行ったりするのである。ただ、新人までもが昼食を事務所の外でとるのはなんだか負けた気になるので、昼食時のルーティンを作ってみた。その一つが「日本講演新聞」の過去の記事を読み直し、気になった言葉を「水曜どうてちょう」に書き込むのである。これならたとえ暇であっても手帳がどんどん埋まっていき満足感を味わえると気付いた。しかも、自らの学びの時間にもなり、一石二鳥、いや昼食を事務所で過ごすという勝利を味わえるから一石三鳥である。(笑) 今日紹介するのは、4月26日に書き込んだ内容である。テーマは「伝える」だ。

## 伝わるよう慮る

「伝える」という仕事をしている人間にとって一番の関心事は「伝わったかどうか」ということなのです。もっと言うと、伝わらなければ伝えたことにならないのです。身近なところで「言った・聞いていない論争」が勃発しますが、これなどは「伝える」と「伝わる」が次元の異なることであることの典型例です。「あなた! 今晚が飲み会だったなんて聞いてません」「この前、言ったじゃないか!」「いいえ、聞いてません」「言ったよ、とまあ、こういう論争です。

実は、マスコミも「伝える」ために相当力を入れてきましたが、「伝わる」ための工夫や配慮が欠けていたように思います。そのことに誰よりも早く気がついたのが、最近よくテレビに登場している元NHKキャスターの池上彰さんです。池上さんの「伝わる」伝え方は天下一品です。

池上さんが、「どうしたら伝わるか」ということを考えるようになったきっかけは、『週刊子どもニュース』という番組を担当することになってからだそうです。「子どもに理解できるようにどう伝えるか」と、追求していった結果、あることが見えてきました。それは、自分たちマスコミ人が当然のように使っている言葉の意味が、子どもはもちろん、一般の人にも伝わっていないのではないか、という疑問を持つようになったのです。

たとえば、「誰々を〇〇の疑いで書類送検した」とよく耳にします。警察がそのように発表し、事件記者は何の疑問も抱かずそのまま報道します。「書類送検」という言葉は、警察関係者や事件記者の間では普通に使われている言葉なので、これが一般の人に理解されていないということに記者たちは気づいていない、ということに池上さんは気づいたのです。

新聞記者や論説委員、評論家といった人たちのほとんどがエリートで、インテリです。ややもすると、自分たちが使っている専門用語や横文字の言葉、持っている知識が当たり前過ぎて、「当然みんな分かっている」という前提でしゃべったり、書いたりしています。これは想像力の欠如というもので、「もしかしたらこの言葉、この説明では伝わらないかもしれない」と、相手を慮(おもんばか)ることがないのです。

さて、私たちが常日頃考えていることですが、まず伝わらない伝え方。①自分の主張だけが正しいという言い方をする②自分の主張を強調するために他の考え方を批判する③一つのことを伝えるためにくどくど言う④聞いている人のプライドを傷つける⑤話が長い。

次に一応伝わるが、肝心の人間関係が壊れる伝え方。①脅す。「このままだとあなた、地獄に落ちるわよ」みたいな②暴力的な言葉を使う③伝える人が言動不一致。

そして伝わるように考慮していること。①できるだけ簡単な言葉で、具体的に、面白く②高校生と70歳以上の人が理解できる速さ、言葉遣い③強調したいところではトーンを変える④謙虚に、それでいて論理的に、そして客観的に⑤相手を無理に変えようとしな⑦相手のプライド、価値観を尊重しながら話す。

今やマスコミ人だけでなく、インターネットを使って、あらゆる職種の人が情報発信者になっています。「伝える」ことが容易にできる時代です。だからこそ、「どうしたら伝わるか」ということを慮(おもんばか)っていききたいものです。

「日本講演新聞 2364号(2010/05/10)社説 魂の編集長 水谷謹人」より

昨年度までの自分を振り返ると、「伝わらない伝え方」「一応伝わるが、肝心の人間関係が壊れる伝え方」に当てはまるものが複数ある。申し訳ない気持ちになったので、すぐに手帳に書いた。最近、仕事に生かしたいという思いから英語を勉強し始めた。不思議なことに、英会話においても「強調したい単語を強く発音する」ことで、相手が誤解することなく伝わるよう配慮するらしい。その時気付いたことがある。仕事で、私が英語が下手と分かれば簡単な単語で、ゆっくり船長は話してくれるのだ。自分がいかに慮(おもんばか)ってもらっているのかを知り、ありがたい気持ちになれた。ところで、「慮る」は「おもんばか」と読むということを今日始めて知った。人生は日々勉強である。